



明治学院大学 国際学部付属研究所シンポジウム
大学と地域連携を考える地域円卓会議

自然に恵まれた横浜キャンパスを擁する明治学院大学、
学生が地域に関りながら、自然との共生や生物多様性に関する
新たな学びを創出できるのか

実施報告書

日 時： 2025年11月29日（土）14:00-17:00（受付開始 13:30-）
場 所： 明治学院大学 横浜キャンパス 5号館 クララ・ラウンジ
（神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 1518）
主 催： 明治学院大学国際学部付属研究所
共 催： まま maioka
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄・NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】大学と地域連携を考える地域円卓会議



■日 時：2025年11月29日（土）14:00-17:00
■場 所：明治学院大学 横浜キャンパス 5号館
クララ・ラウンジ
■着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：26名（自営業・会社員・教職員等）

■主 催：明治学院大学国際学部付属研究所
■共 催：まま maioka
■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

林 公則（明治学院大学国際学部 教授）

中川 隆義（まま maioka）

自然に恵まれた横浜キャンパスを擁する明治学院大学、学生が地域に関りながら、
自然との共生や生物多様性に関する新たな学びを創出できるのか

明治学院大学ではすべての学部の学生が1~2年次に、横浜市戸塚キャンパスで学びます。この地域は舞岡公園周辺をはじめとする里山の自然に触れながら過ごすことのできる環境にあります。今回の円卓会議では、大学と地域や自治体との連携を通して、学生が自然との共生や生物多様性に関する学びを得ながら、地域の担い手にもなり、自治体と大学の連携の新しいモデルになりうるのかという問い合わせを関係者みんなで議論します。

センターメンバー

林 公則

明治学院大学
国際学部 教授

中川 隆義

まま maioka

山岸 伶衣

明治学院大学
国際学部 3年

薩摩 藤太

湘南とつか YMCA
館長・上倉田地区
連合会付地域
アドバイザー

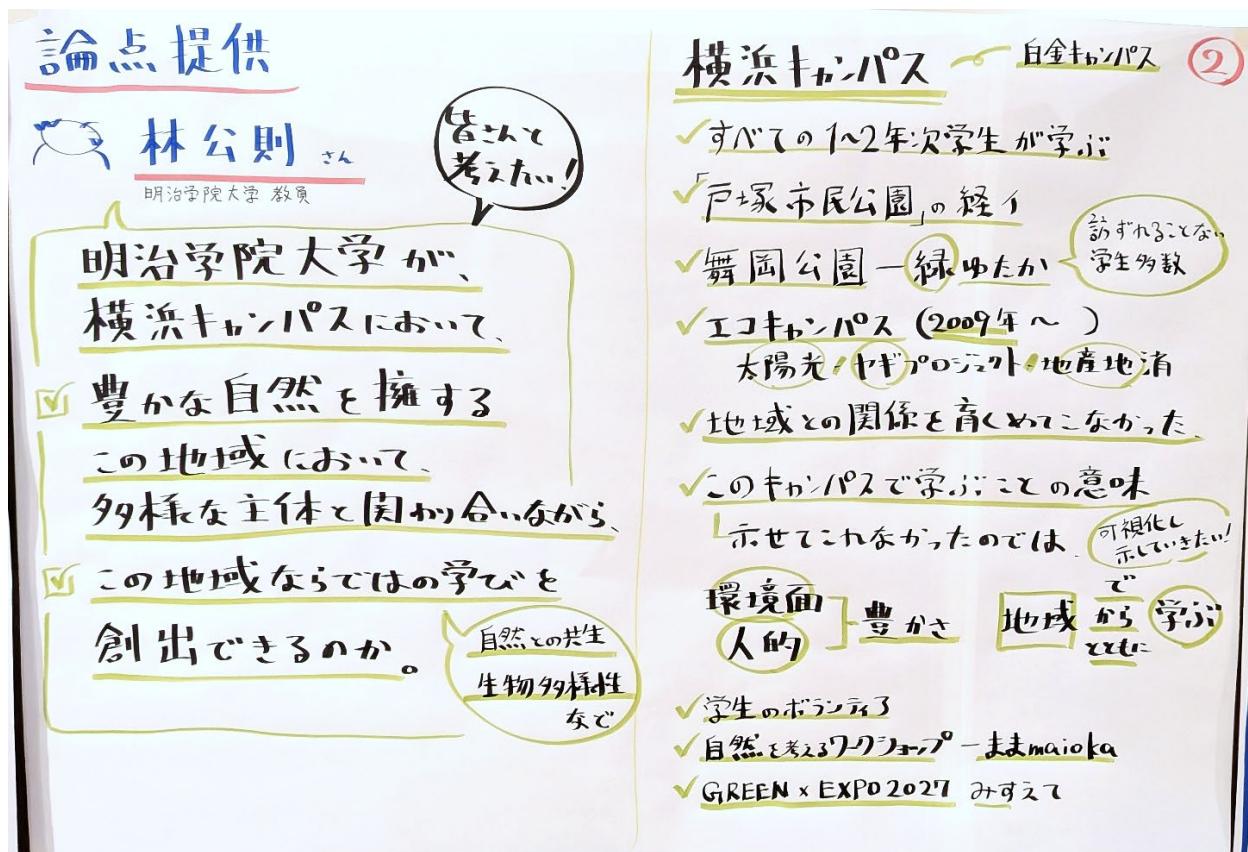
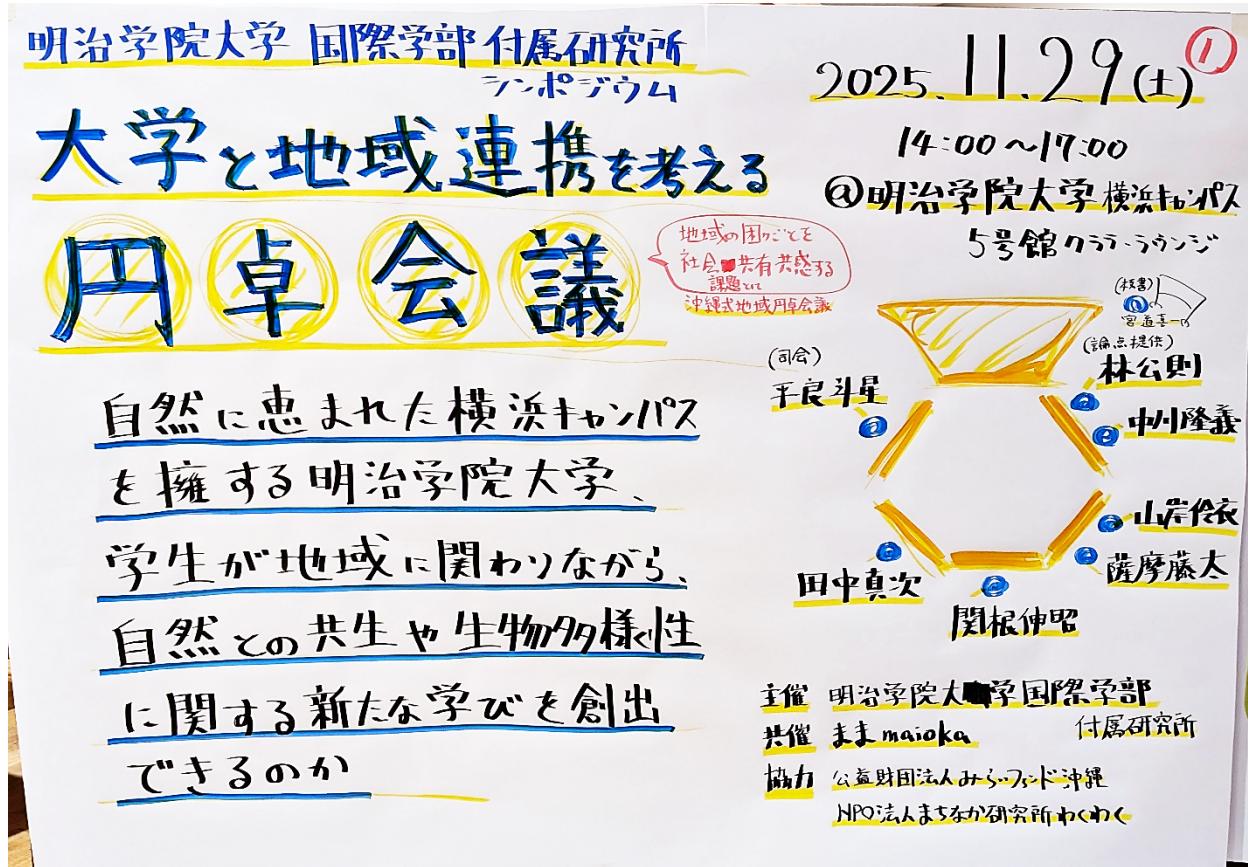
関根 伸昭

横浜市
みどり環境局
戦略企画課
戦略企画課長

田中 真次

名瀬谷戸の会
会長・
森林インストラ
クター

<板書記録>




中川 隆義 さん
 ままでりか
 舞国公園で里山ボランティア

豊田中出身
 横浜をつなげ330人

40年舞国公園に入たことがなかった
 子の小学校の宿題ではじめて、田んぼ知った

これまで30年かけて残してくれた貴重な都市自然を
20年先、30年先の次世代に残す!

(横浜)都市自然を次世代につなぐ(ミッション)

地域の人たちが身近な宝の価値に気付き、残り合って持つ(ビジョン)

未来宣言づくりから始める緑の事業承継
 <3700-4>

国際学部 / 環境学原論

2022 舞国公園 明学生 未来宣言づくり

2024-2025 地域いつもの大學、大學いつもの地域では?
 身近な自然に周わり、横浜をつなぐ
 で学ぶ意味を考える

国際学部 地域活動 横浜市/戸塚区
 講義 WS ポラボ 内埠会議 連携


山岸 伶衣 さん
 明治学院大学国際学部 国際学科3年生

中高・自然科学部(6年)

学生からみるキャンパス

広い一自習場所ランクに困る

自然・四季を感じられる

戸塚地域の方との交流

正門まで歩かないと感じない
 戸塚駅から遠い
 自分からでいこむと周りも遠い

学生WCS (7・8・9月)

9月成績
 3回活動
 ワークショップ
 食事会
 ハーフ活動
 部活動、講義
 横浜チャリットボリューム


薩摩 藤太 さん
 湘南つかYMC館長、上倉田地区連合会付
 地域アドバイザー

60名学生ボラ → 地域へ(去年)
 学生の気づき

駅 → ようやく並んでバスまでるね
 地域の接点ないね
 明学生たまにしてる場がない

戸塚区 → 赤ちゃんへ、キレイ
 160名強 → 個別級
 経済格差ひがつがつ
 昔からの人、ひっこてきた人

地域の担い手 → 不足
 明学生のニーズ、地域のニーズ
 70代 元気高齢者多
 第44回目遊山箱

保護世帯
 ファンション増
 ブランケット
 サポート
 水辺
 愛護会

ブランケット
 ブランケット
 ブランケット


関根 伸昭 さん
 横浜市みどり環境局 戰略企画課 課長

環境政策 みどり **公園** **農業** **環境保全**

緑の残る大都市

緑の10大拠点 水と緑の計画
 舞国 野庭地区

保全と活用 市民参加 **農公園**
 地域活動

森づくり
 ハーフード
 水辺
 サポート
 愛護会

GREEN × EXPO 2027 横浜で開催

田中真次

名瀬谷戸の会 会長

2016年設立 会員約150名

✓ 横浜市有地の里山保全活動

✓ 名瀬北特別緑地保全地区 (6.5ha)

✓ 運営資金必要

2025.11
市の中32回横浜環境
活動賞 市民の部
大賞受賞

里山環境教育

毛 3色だんご
目
耳
鼻
舌
歴史・文化
生活と関わること

子どもたち、感動を親へ
会員増
里山
保全 環境教育
産官学民
一体化
教職員含む 学年応じた

サマセッション

子ども
きっかけ
どうする?
さわかれ
行く
行け
つながり
つづける
けが
ほつた
みよみ
活動

じくみ
あった
継続性
むずかしい
卒業
地域
地城も
かわる
ならない
つなぐ
社会
調査
NPOの
ヨコつながり
大事
原体験
興味もつ
きっかけ
たたいて
思う価値
ある
大學生
いそがしい
大學生の中
にも
ある
大學生と
公園
じょくせん
全体像
みよみ
な?

色
色
基本理念
本物から
学ぶ
教室内
(里山校外)学習
四季折々の
うかがい学習メニュー
スケン
機能・人
が必要

Q 中川さん

⑤ 大学のキャンパスでやったい

→ 地域へ出でいくことから

⑥ 地域のかかわ

明治キャンパスのむこうへ公園をみている

大学がハブになれるかも

⑦ コストがかかる / 大学の管理

Q 林先生

課題のせいで高まる

⑧ いかに大学を開かれた場所でできるか

私たちの場所でできるか、それは開かれてなくて

⑨ いろんな人が、これ意味を見出していく

コストを、いじたけでない方向にも

コストへもむけないながらもかも

Q 幸良さん

⑦

⑧ 大学生がやりたいことで

どう実現していくか

⑨ 私有地

ノウハウつみあわせ

教育との里山

福祉的、地域づくりもある

⑩ いろんな人が広く関わる座り込み

多様な主体の再定義

もって広いハズ

■今後のアプローチの方向性

1) 地域に開かれた大学の実践を

横浜キャンパスを活用し、学生に有益な学びを創り出すには、地域住民や自然資源との接点が必要だということが円卓会議で確認できたが、まだまだ舞岡公園の利用や、戸塚地域の住民との対話の場が少ないことも確認された。大学本来の役割である学びに関するソフトの提供（地域学講座など）に加え、ゲートウェイとしてのハード面でのアプローチの可能性も検討すべきではないか。そこで、最初のアクションとしては、大学と地域の対話の場を学内外に設け、地域の方々との接点を作っていくべき。後日の振り返りでも、

1. 地域の野菜が買えるキッチンカーやマルシェをキャンパス内で展開する。
2. 専門家の指導のもとで、学生やボランティアの方々と共同管理できる場所（畑、ビオトープ、ミツバチなど）をキャンパス内に。
3. ただの通過点（経由地）となってしまっている戸塚駅にも大学と地域の接点となるサテライトオフィスを構える。

等のアイデアがでている。

更に地域住民や学生の主体性を引き出すためには広場の解放だけを行い、その使い方を自ら企画していくような促し方も低コストで一考の価値がある。（沖縄で行われているパーラー公民館の事例等も紹介された）

2) 学生プロジェクトの継続性について

大学と地域連携を行う際にしばしば課題化されるのは、その事業・企画の継続性である。学生への過度なプレッシャーをかけず、地域への荷重負担にもならないような、お互いの意思確認の場が必要である。継続自体を必須条件にせず、毎年毎年移ろう課題と入れ替わる人材をしっかりと確認しながら連携事業は進めていこう。

3) 舞岡公園等の自然へのアクセスやキャンパス内の自然活用をよりシームレスに

横浜キャンパスの立地は、舞岡公園等里山資源へのゲートウェイとなる。大学と地域、専門家が一体になってマルチセクターでの里山活用プロジェクトの起案を横浜市に対してアプローチすることが expo2027 でも有効な事例となり、大学のプレゼンスアップのチャンスとなるのではないか。キャンパス内の緑の維持にかかっている費用等も机上に上げて、学内全体で議論を進めていくべき。

■参加者によるサブセッション

自然に恵まれた横浜キャンパスを擁する明治学院大学、学生が地域に関りながら、自然との共生や生物多様性に関する新たな学びを創出できるのか

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 「きっかけ」→「感じる」
- ・ 「価値を見出す」
→自然と近いキャンパスとして知ってもらう。しっかりと調査する。
- ・ 「きっかけ」をどう繋いでいくか
ex. ゼミのメーリング
- ・ 意外と大したことない「きっかけ」が多いかも?

③

- ・ ○ふれあい広場で田をかりていて、農業を行っている。
→収穫祭(ふれあい広場の仲間)40人←東屋修繕 官レンケイ
- ・ 悩み軽いよね→里山にはいかないのでは?
↑外国に似ている。
多学は、留学生
- ・ 大学がどう関わっていくかが大事。知の集積が財産を活かすべき。教授達の受け入れが大事!!
- ・ 学生ボランティア増加・自然がいい。ここにいると楽しい
声かけ・名前で、居ごこちのよい雰囲気が大切
- ・ 縁が今はない 工夫がいる 業には入りにくい
ニーズのマッチング「何をしたいか。」
信頼関係が築けるか

②

- ・ 舞岡公園を舞台に社会調査
- ・ 金
- ・ 学生 20名
- ・ NPO 同士の横のつながり 現在ない!
- ・ @舞岡公園 花咲くクラブ
- ・ →機会共有型コミュニティ
- ・ <全体像の見える化>
- ・ 広域利用 ふるさとの森×舞岡公園
- ・ 植生の違い!
- ・ 人が通らない・薄暗い・車が入れない
→治安面
- ・ ケガ発生等の病院へのアクセス。
- ・ 保育園の子どもたちが迷ったら?(小谷戸の里まで入れる!)
- ・ そこまで見えてる活動!

④

- ・ 意義、横浜キャンパスに通う
- ・ <理想>
- ・ キャンパス内に畑がある
- ・ “たむろ”する場所がある
- ・ 日常的に利用できるお店→地域の人々も来て利用できる
- ・ (?) 自然を傷付ける可能性はないのか?
荒らしとか
- ・ 【人の継続性難しい
“核となる枠組み”が必要】

⑤

- ・ この話し合いは、持続するのか?
→一回ぽっきりじゃ意味がない。
- ・ 繼続には、金がかかるが、その維持はどうするのか
→サッカースタジアムの例(その金はどうするのか?)
- ・ ボランティアには金がかかるが、市は運営資金をくれない←企業にお金を出してもらう
(環境こうけん、地域こうけんを念頭においている所が多い)
- ・ 複数の企業からお金をもらっている
←市を頼ってはだめ
- ・ ささやかな有償ボランティアの存在が必要
←高額な報酬は責任が伴うから
- ・ 企業の CSR があるため飛び込みでも資金を集めることができる
←特に外資系が積極的

⑥

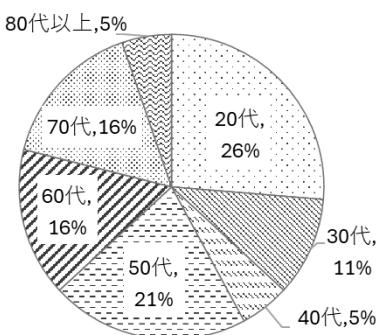
- ・ 地域とのつながりは過去にもあったが
「継続」が難しい
→太いパイプになりづらい(一過性)
→人(学生)も変わっていく
⇒核となる人、枠組み
- ・ 子供時代の経験が大事
→経験で変わる、成長する。
一生をつらぬくもの
- ・ 大学生はこのキャンパスに求めている?
→大学生はない
- ・ 大学生 →やらなくてはいけない事が沢山ある 忙しい
→もう少し先(の年齢?)
でも原点は初等教育にある 原体験
→農林、森に興味、関心が深い学生はいる
(全てではない)
=里山:学生とのつながり?
- ・ コスト 緑地管理にどのくらい費用がかかるのか...
Ycampus 年間 3 千万円
- ・ コストがかかるからこそ学生とつなげたい

大学と地域連携を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

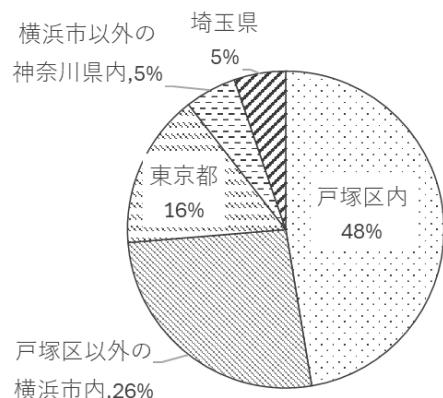
◆概要

- ・日 時: 2025年11月29日(土) 14:00 - 17:00
- ・場 所: 明治学院大学 横浜キャンパス 5号館
クララ・ラウンジ
- ・着席者: 8名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ・参加者: 26名(自営業・会社員・教職員等)
(アンケート回収19名、回収率73%)

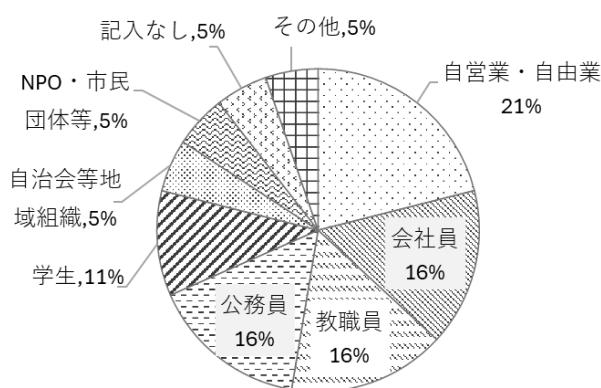
1. 年代



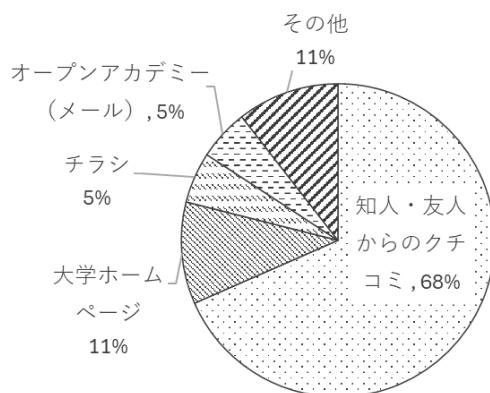
2. どちらから?



3. 職業



4. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度

平均: 4.3 (5点中)

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
7名	10名	0名	1名	0名	1名

6. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ キャンパスに日本みつばちの箱をおいてほしいという話を思っているんですよーと言ったら「虹の家に置きますか」とオファーを頂きました。
- ・ 色々な意見が聞けて楽しかった。
- ・ いろんな立場の意見を聞けて勉強になった。
- ・ 多様な視点からの多様な意見や考えを聞くことができた。

(4. 概ね満足)

- ・ 横浜校舎周辺の方々が地域で様々なとりくみをされていることが勉強になりました。
- ・ 地域や課題をいろいろな観点で見ること、それが結びついていくことに面白みを感じたから。

- ・もう少しお話合いの場が欲しかった。
- ・新たな気付があった。
- ・まず、学生が学内でコミュニケーションをとるように促す。また、イベント紹介をして、やる気のある学生の参加を促す。
- ・他の立場での考え方や思いが聞けて良かったです。もっとたくさんの方々の意見交換や現実的な方法などが考えられるようになると良かったです。
- ・①円卓会議一素晴らしい。今後も続けてください。(沖縄、問題多すぎて大変?)
- ②戸塚で自然論議はぜいたく。問題にならない。
- ・当初のプロジェクタ画面が不明瞭だった。でも全体の話はそれぞれ具体的でわかりやすかった。全体のタイムテーブルがルーズだった。

(2. あまり満足していない)

- ・もう少し大学と地域連携について、戸塚の展望もふくめて語ることができればよかったです。

7. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・地域で学ぶ、地域から学ぶ、地域と学ぶ
みつばちに関わりたい学生がいれば、いつでも受け入れます！
田中さんがおっしゃっていた「本物から学ぶ」は小学生のみにとどまらない話だと思いました。
- ・戸塚という地域を色んな視点から見て、なんか立体的に街が見てきた気がします。
キーワード きっかけ、入り口・横のつながり・感動、原体験・継続性の問題・見える化
- ・薩摩さんのご意見は大変ありがとうございました。公園に持ち帰って議論できればと思います。
- ・地域の民間企業ももう少し入ってもよい感じはしました。

- ・地域の連携は地域の課題の解決を中心にやるのがよいと思う。地域の課題のとらえ方に経験が必要と思う。お互いの役割期待を調整できるコーディネーター役が必要です。
- ・久々に横浜キャンパスを訪れ、緑の豊かさ、学生、地域の方の活気を感じ、良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・公開講座には数回出席しています。今回の講座は、継続が必要と思っています。今回で終わりでしょうか？
- ・薩摩さんのお話です。
もう少し、対話のお時間が長いと良かったかなと思いました。
- ・まず、学生が学内でコミュニケーションをとるように促す。またイベント紹介をして、やる気のある学生の参加を促す。
→コミュニケーションを通して学生の学びに対する気付きと変容を促して、やる気を創出させる。
→コミュニケーションの中身に本物が必要だと思います。地域からの発信、それは田中さんなり。学生は、その本物を学生間で伝え、地域のイベントに参加する。
→本物による変化と、就職や障害への影響を気づかせる。
- ・地域の担い手不足や困りごとはたくさんあるけれど、学生たちが入り込むことによって地域活性化にもつながるのは間違いない。その中で今後どうオープンに両者がなって、マッチングさせていくかがとても課題とも感じる。地域からではなかなか発信しにくいので、大学の教授が興味を持って、積極性を出していくことがキーポイントかなとも感じた。授業の一環であれば、学生も新たな気づきになるのではないかと思う。
- ・田中さんが取り組まれていること、特に色々な障がいに対してそれをどのように越えていくかという視点で行動されていることがすばらしいです。

- ・ 上倉田の私有地の件、実際行ってみたいと思った。ボラセンの畠、土地が足りていないので。
- ・ 核となる人、核となる枠組どうあるか、どのくらいの熱量をもっているかというのは、やはり非常に大きいと感じた。
その上で、人も枠組も時の流れとともに変わることを踏まえて、どう継続していくか、どう周囲を巻き込んで一体感を出していくか・・・。決定打も正解も結局はなく、考え続けできることをやっていくしかないのかな・・・とも思えた。コスト感覚も見逃せない。
- ・ 都市部としては問題（薩摩藤太）—貧困の格差。セイフティネットの充実、特別教室が増える。→ 課題としてとらえて改善していく里山保全活動、いいね。がんばれ～。問題なし。
- ・ Do For Others の実践としての明学の活動に感謝しています。戸塚駅周辺のサテライトキャンパスとして善了寺を使ってください。いつでもお待ちしております。
グリーン×エキスポ 2027 の成功は明学の先生、学生諸君にかかっていると思います。
- ・ 学生のいろいろなアイディアがよかったです。地域のつながりをもっと持つ機会があればよいと思った。
たくさんのいろんな立場の人の意見が聞けて、とても参考になった。

(写真) 会場の様子



「きっかけ」→「感じる」
「価値を見出す」
↳ 自然と近いモンペスとして知る
もう。
しっかりと調査する。
「きっかけ」をどう繋いでいくか。
ex. 林せみのメーリング
意外に付したことない「きっかけ」
大
何が多いかも？

舞岡公園も舞台に社会調査
学年20名
金
・ NPO 同士の枝のつながりへつながり!
④ 舞岡公園
花咲くクラブ
・ 広域利用
ふるさとの森 × 舞岡公園
・ 植生の達人!
・ 人が通らない・薄暗い・車が入れない
→ 沿岸面
・ ケガを防ぐ病院へのアクセス。
・ 保育園の子どもたちが迷った？ (小谷戸の黒ねこ入る！)
そこまで見えてる活動!

- ふれあい広場で田んぼアートで農業を行なう。
→ 集大祭 (ふれあい広場の仲間)
40人 ← 東屋修繕
官レンゲ1.
- ・ 小島が軽く上る。→ 里山にはいかないの? なぜ?
↑ 外國に似ている。
日本は、留学生。
- ・ 大字がどう関わっていくかが大事。矢の集積や
財産をどうかねべき。教授達へ受け入れが大事!!

⑥ 勝利ボランティア增加口。自然がいい。ここにいはと楽しい
あひけ。名前で。居ごちのふへ零回気が大切。

⑦ 縁が今はなん。エチがいる。業には入りたくない
ニーズのマッキング。「何をしていいか。」
は頼んでいい。繋げるか。

・ 畜産、植派キャンバスに通う。

（理想）

- ・ キャンバス内に畠がある
- ・ 「たむろする場所がある。

・ 日常的に利用できるお店。 ← 地域の人々も
来て、利用できる。

〔人の継続性難い
“核となる併組み”が必要〕

（？）自然を傷付ける
可能性はな“い”か？
荒らしづか。

- この流れは、続するのか？
→ 一回は、^僕意味がない。
- 組織は、金がかかる。その維持はどうするの？
→ サーフィンの会員、(その金はどうするの？)
- ホテルには金がかかるが、市は運営資金を
くれない ← 企業にお金を出してもう。
(環境貢献の人、地域に貢献する人)
を意識している所が多い。
- 複数の企業からお金ももらっている。
← 市も頼るのはいい。
- ニセカウントの存在が必要。
→ 高齢化社会は責任が伴うから。
級

- 企業のCSRは、そのための飛躍的な資金を集めることから始める。
← 物理外資系が積極的

レ地城でのつながりは過去にもかかわらず
組織が難い
レ太いパイプにならない(一過性)
レ人(学生)も変わっていく
②接する人、枠組み

レ子供時代の経験が大事
レ経験で変わら、成長する
一生でつながること
大学生はこのキャリアパスに
求めている？ → 大学生時代

大学は → やりがくは山が車が
決まる。そこ
もう少し先(年齢？)
でも原点は初等教育にある
原体験

森、林、森に興味、興味が
深い学生が多い(全てではない)

里山：学生とのつながり？

コスト 緑地管理はどこか費用かかるのか…。
Y campus 年間3千万円
コストをやめよう。